

家庭学習

学力向上には家庭学習の習慣化は欠かせません。「家庭学習のてびき」等で具体的な取組方法を示し、家庭と連携して落ち着いて学習できる環境づくりを進め、自律的な学習習慣を確立しましょう。

家庭学習は大きく ①宿題 ②音読 ③自主学習 ④読書 に分けられます。小学校低学年～中学年は、家庭学習の習慣をつけさせましょう。小学校高学年～中学校は、自分の課題や目的に応じた自主学習ができるようにしましょう。

1 一日の学習時間（目安）

- ① 小学校 $10 \times \text{学年} + 10$ 分
- ② 中学校 $10 \times (\text{学年} + 6) + 10$ 分
(学校独自に学習時間を設定している場合があります。)

スマホ・ケータイは手の届かないところに置く！
テレビやゲームは消してやる！
継続は力なり。毎日、時間を決めて計画的にやるぞ！

2 取り組む順番（例）

- ① **宿題**：学校の宿題が一番先。（連絡帳を見て）点検。
- ② **音読**：小学生は家の人に聞いてもらい、印をもらう。
- ③ **自主学習**：自分で考えた学習。予習・復習等。中学生はこれが中心。
- ④ **読書**：毎日読書。時間やページを決めて行う。

自主学習取り組みの工夫

見開き2ページにまとめさせる。ローマ字日記を書く。平日は予習・復習・宿題、休日は問題集・ワークのようにパターンをかえる。中学生は復習で問題集、ワークにできるだけたくさん取り組む…などなど



3 取組の工夫

- ① **始めが大切**：学期始めには家庭学習の仕方をしっかり確認する。
- ② **内容の向上**：よいノートを掲示や通信で紹介し、取組の参考にさせる。
- ③ **やる気UP**：フィードバックとしてコメントを書いて児童生徒の意欲を高める。
- ④ **チェック**：短時間に全員にコメントは書けません。こんな工夫もあります。

チェックの工夫

- ノートを2冊準備し、一日おきに使用させ、コメントを書く。
- ・学級の半分ずつコメントを書く。(2日に一度はコメントを書く目安で)
 - ・児童生徒が、どうしても見てほしいというノートには、付箋を貼るなどの約束を作っておく。
 - ・コメントが書けなくても、ノートを見た印は必ずつけて返しましょう。

4 各教科や単元の特性に応じ、学習の見通しをもたせた家庭学習の取組

